

オーストラリアガス産業信託および日本ガス協会によるカーボンニュートラル化に向けた協力等に関する覚書の締結について

2024年10月16日
一般社団法人日本ガス協会

日本ガス協会は、オーストラリアガス産業信託（Australian Gas Industry Trust）との間で、カーボンニュートラル化に向けた協力およびLNGの安定供給に資する支援に関する覚書（Memorandum of Understanding、以下MOU）を締結いたしました。

日本にとってオーストラリアはLNGの主要貿易相手国であり、日豪事業者間でオーストラリアにおけるe-メタン製造・輸出に向けた検討が進められています。そこで、カーボンニュートラル化に向けて、e-メタン実装の環境整備を加速化させていくために、この度、両団体はMOUを締結いたしました。

両団体は今回のMOU締結を通じ、e-メタン輸入時のCO₂カウントルール^{※1}の日豪事業者間協議の進展や、GHGプロトコル^{※2}、IPCC^{※3}等の国際CO₂カウントルール改定への働きかけ、円滑なLNG取引の継続に資する活動に取り組んでまいります。

主な協力・提携分野は以下となります。

1. 日豪間におけるカーボンニュートラル化に向けた連携
 - ・カーボンニュートラル化に向けたビジョン、取り組み事例の情報交換
 - ・日豪事業者間におけるCO₂カウントルールに関する協議へのサポート
2. e-メタン国際制度の創設に向けた協働
 - ・GHGプロトコル改定に向けた働きかけ
 - ・IPCCにおけるe-メタン環境価値反映に向けた働きかけ
3. LNGセキュリティ・ホットライン
 - ・円滑なLNG取引の継続に資する情報交換、必要な働きかけ

今回のMOU締結により、日本にとっては、日豪間で確立されたLNGサプライチェーンを活用したe-メタン導入につなげてまいります。オーストラリアにとっては、産業基盤であるガスビジネスの継続的な発展につなげてまいります。

なお、MOU締結は、国際ガス連盟の理事会に合わせて、カイロ市（エジプト）で15日（火）14時（現地時間）に執り行われ、日本ガス協会の早川専務理事、オーストラリアガス産業信託のアンドリュー・ガーネット会長がMOUを取り交わしました。

以上

お問い合わせ先：広報室（03-3502-0112）

※1：e-メタン燃焼時のCO₂排出量の算定ルール

※2：GHGプロトコルは世界資源研究所（WRI）と持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）が共同で開発した温室効果ガスの排出量を計算して報告するための国際的な基準

※3：IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）により設立された政府間組織

(参考1) オーストラリアガス産業信託の概要

オーストラリアガス産業信託：Australian Gas Industry Trust (AGIT) は1999年に設立された、オーストラリアにおけるガスの研究、教育、開発、業界アドボカシーを担う民間団体。オーストラリアのガス体エネルギーのインフラ、ネットワーク、機器を代表する5団体で構成され、オーストラリアにおける国際ガス連盟 (IGU) 正会員。

(参考2) MOU 締結の様子



オーストラリアガス産業信託会長 Andrew Garnett 日本ガス協会専務理事 早川 光毅

(参考3) 関係者コメント

オーストラリアガス産業信託会長 Andrew Garnett 氏コメント

オーストラリアはこれまで、日本の友人たちと数十年に渡ってエネルギー分野に関する実り多い協力関係を構築してきた。この新たな MOU 締結は、ガスの低炭素化・脱炭素化に向けて共に歩み続けるという未来を築いていくものである。

日本ガス協会専務理事 早川 光毅コメント

今回の MOU 締結はこれまでの両国の安定的で堅固な LNG 取引をベースとした信頼関係のもと、エネルギーのカーボンニュートラル化に向けた取り組みにおいても両国のガス事業者が協働して取り組んでいくことを確認できたものであり歓迎したい。日本ガス協会は今後も多くのステークホルダーと協働しガス体エネルギーによるカーボンニュートラル化に貢献していく。